

<実践報告>

学級通信「姫百合」を活用した高校生のキャリア教育

古川忠司 長野県立飯田風越高等学校
土井 進 信州大学教育学部教育科学講座

Introducing Career Education to High School Students
Through Class Journals

FURUKAWA Tadashi: Iida Fuetsu High School, Iida City, Shimoina District
DOI Susumu: Department of Educational Science Faculty of Education,
Shinshu University

研究の目的	学級通信「姫百合」の継続発行を通して高校生へのキャリア教育を実践し、社会や職業を理解して自己に適した職業を自発的に決定し、自己実現できる生徒を育てる。
キーワード	キャリア教育 気づき 共鳴 (シンクロナイズ) 自発性 継続
実践の目的	学級通信「姫百合」を活用した生徒の自発性の育成とキャリア教育の実践を目的としている。
実践者名	第一著者と同じ
対象者	長野県立飯田風越高等学校 2年4組 39名
実践期間	2010年4月～2012年3月
実践研究の方法と経過	高校の担任がクラスの生徒に関わる時間には限界があり、朝夕の短学活だけである。この朝夕の15分間を有効に用いて意思疎通を図ることをめざし、「自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒」という教育目標を、高校現場においても実践できないか考えた。連絡などを主体とした従来の学級通信ではなく、日常のニュースから、歴史・医療・政治・経済など様々な分野の内容を学級通信「姫百合」に掲載することで、自発的に学習し、進路決定できる生徒を育て、生徒・保護者・教師の共鳴を実現しようと試みた。それは同時に短学活で「集中力」を高め、授業に臨む準備を整えることも目指した。更に授業や部活動、小論文や面接指導においても学級通信「姫百合」を活用し、生徒が自発性を発揮するように促した。
実践から得られた知見・提言	学級通信「姫百合」を活用してキャリア教育を実践した結果、一人ひとりの自己実現が進行するとともに、進路や社会に対する問題意識の高まりが、クラス内はもちろん、広く学年全体、さらに全校へと「共鳴」しつつあることは大きな成果である。船井幸雄は「世の中をよい方向へ変革するのに一番肝心なのは、良いと思うことを誰かが一刻も早く始めることです。人より早く気づいた人が自ら先行するマイノリティ、つまり百匹の猿の中の一匹になるように努めればよいのです」と述べている(船井 1996)。今後も「姫百合」を継続的に発行し、高校生のキャリア教育の充実に努めていきたい。

1. 本研究の目的

筆者は平成 10 年度の中高人事交流によって、長野県立下伊那農業高等学校から下伊那郡松川町立松川中学校に赴任し、ここで「自問教育」と出会い（古川 2002,2003）、「自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒」という教育目標の実現に取り組んだ。この教育目標を高校教育現場においても実現したいと考え、学級通信「姫百合」の継続的発行を通して（古川 2010-2012）、社会や職業を理解して自己に適した職業を自発的に決定し、自己実現できる生徒を育てるキャリア教育を実践したいと考えた。「姫百合」を短学活で「集中力」を高めるために活用するのみならず、授業や部活動、小論文や面接指導においても「姫百合」を活用し、「気づき」と「共鳴」を通して自発性を発揮するように促した。本稿では、筆者が担任したクラスにおける 2 年間の実践を報告する。

2. 生徒の現状

2.1 新聞を取らない家庭の増加と報道番組を敬遠する習慣

ある小学校教員の話では、「版画の授業のために、児童に新聞を持参することを伝えた所、新聞を取っていないので持たせることができないと数名の保護者から連絡があった」という。ポジティブに解釈すれば、インターネットの普及により新聞に寄らなくても情報を入手できる環境があるということだが、ネガティブに捉えると、経済的理由によって新聞を取ることができない家庭が少なからず存在するのである。また、バラエティーなどの娯楽番組ばかり見て、報道番組やニュースを敬遠する傾向があり、これは授業の時などに、前日のトピックスについて話しても知らない生徒が多いことから分かる。

2.2 学習習慣の欠如

風越高校で毎年定期的に行っている「学習習慣実態調査」において、平日の平均学習時間は 1 時間未満の生徒が半数いて、2 年生の中だるみが顕著である。試験直前の一夜漬けの学習に埋没してしまっている。試験範囲が示されている試験には対応できても、センター試験や大学入試のように試験範囲が膨大な試験にはとても対応できない。更に、提示された課題に対する取り組みはできても、主体的な学習はできにくい傾向がある。

2.3 受験知識偏重教育の弊害

生徒全体に「受験に必要な知識を得ることだけが学習」と考える傾向があり、試験に出ないことは価値がないと考えて身につけようとしめない生徒が多い。従って、一般常識とか社会情勢などと言った試験に出題されないことには関心を示さず、テストはできても常識がない若者が増加している。学科試験で一次合格をしても、面接・小論文で不合格となる生徒の例を良く聞く。

3. 短学活で「姫百合」を黙読させる意義

3.1 短学活の 15 分間を活用することの重要性

加賀前田家の藩士夫人が開いた女子裁縫専門学校から始まり、平成 24 年に創立 120 周

年を迎える「豊島岡女子学園」は、授業前5分間の「運針」で集中力を高め、近年都内でも有数の東大進学者数を誇る女子校として躍進を続けている。「運針」の目的は無心になること。物音一つしない中で無心になって布を縫う時間は、集中力を高めるとともに、努力を積み重ねることと基礎・基本の大切さを学ぶ貴重な機会、授業前の脳のウォーミングアップにもつながっていると学校要覧に挙げられている。

この実践をヒントに、連絡を除いた短学活の10分間で読めるB5版の学級通信を発行し、社会情勢や話題性の高い内容を取り上げて紹介することで、一般常識を身に付け、同時に集中力を養うことを目的とした。いわゆる「朝読書」の習慣化である。

3.2 短学活の在り方、5分前行動の習慣

学級経営は、日替わりの当番が、朝の短学活の15分前に研究室に学級日誌・出席簿とともに学級通信「姫百合」を取りに来てくれて、担任が行く前にあらかじめ配って読ませておいてくれる。そして担任が5分前にクラスに行って短学活を始める時には、生徒はみんな「姫百合」を読み終わっている。「姫百合」を通して短学活5分前に着席して落ち付いて文章を読む習慣を身に付けようと始めたことである。

3.3 短学活の在り方、集中力アップ

大切なことは、当番があらかじめ配布して主体的に読ませることと、短学活を5分前に始めることで遅刻者を出さず、落ち着いて短学活に臨む習慣を身につけることである。

三々五々集まってくる集団に「姫百合」を配って読ませても、集中力が高まっていないので内容を理解し身につけるといふ効果が半減する。そこで5分前に担任も行って、みんながきちんと集まって整然とした中で「朝読書」としての「姫百合」黙読が行われ、担任はその内容について端的にコメントし、連絡も行う。

4. 具体的実践

4.1 生徒のニーズ（様々な進路）への対応

「キャリア教育」について、平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」では、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」としている。そこで、生徒の様々な進路に関わる内容や時事的なトピックスを取り上げて、生徒のニーズに応えられるように工夫した。

4.2 双方向性（学校から家庭へ、家庭から学校へ）への試み

教師の側からの一方的な伝達という形にならないために、「号外」によって生徒の感想や保護者の意見を掲載して、「双方向性」を確保し、家庭における親子の会話の一助として活用してもらえるように考えた。生徒・保護者の感想は、同時に「姫百合」の在り方修正のためのメルクマール（指標）とした。

4.3 三年生の「倫理」の授業への「姫百合」の応用

授業内容に即したものを適宜印刷・配布し、視点を変えて授業に幅を持たせた。

表1 倫理・哲学的内容の「姫百合」

No,	内 容	No,	内 容	No,	内 容
2	個性	101	デカルトのボンサンス	346	愛の讃歌
4	やる気	102	プロボノパブリコ	350	月のうさぎ・忘己利他
5	集中力	110	Temporary ablebody	359	辞世の句
6	二つのお願い	117	幸福とは、実存主義	360	人間疎外
9	人類の失ったもの	119	論語の為政篇	372	万里一空
24	性善説と性悪説	177	メサ、フィソポレ活動	374	イタリアの「時間銀行」
25	ソクラテスの無知の知	g3	沖縄慰霊の日	377	スティーブ・ジョブズの急死
44	脳死・尊厳死	279	性格分類	388	サーストンの三原則
84	ダビンチ・コード	281	石出帯刀の自己犠牲	386	ファールブル
85	カントの格率	319	田原総一郎の哲学	400	ルソーの「エミール」
86	アリストテレスの正義論	323	インテル長友佑都	402	GNH, 幸福指数
92	塩狩峠, 狭き門	339	是非に及ばず		
94	ユートピアとディストピア	340	エゴとスーパーエゴ		

4.4 三年生への「小論文・面接指導」への「姫百合」の応用

三年生に対しては、小論文・面接指導に割り当てられた生徒、並びに主体的に指導を希望してきた生徒に対して、次に挙げた「姫百合」の分類表を提示して、本人が希望する分野の「姫百合」を印刷して渡し問題意識を持たせ、基本知識の蓄積と考える指導を行った。

表2 看護・医療系内容の「姫百合」

No,	内 容	No,	内 容	No,	内 容
11	頭痛	125	リポジストロフィー	304	インフルエンザで卵が消える
13	村上友彦医師の実践	136	湿潤療法	305	口内炎で体が分かる
22	人の記憶	137	アシネドバクター	308	靴下で予防医療, 産学協同
34	便秘	145	バリデーション	310	骨粗鬆症に光
35	介護の問題	149	山中伸弥, ips細胞	312	ips細胞バンク
36	mother killer, 子宮頸癌	157	中性子線	315	飢餓で発現, 長寿遺伝子
44	脳死・尊厳死	171	多剤耐性菌	320	エヴァハートの開発
46	救急車の有料化	188	オニヒトゲとサポニン	321	白血球の免疫活動
47	ウィルスの脅威	200	メタボリック・シンドローム	327	UI, 尿失禁
49	整形外科の枕外来	202	忘己利他	334	手術ロボット
52	脳卒中の予兆と予防	221	大動脈瘤	336	胎内音で情緒の安定
53	リンパ管は下水道	223	サーチュイン遺伝子	337	EMS, 電気筋肉刺激
56	サバイバーズ・ギルト	228	亀田総合病院	347	歯髄幹細胞で皮膚細胞再生

58	ジェネリック医薬品	237	アレジション・メイシ	349	ヒューマン・ロボット
62	人口生命, 合成ゲノム	247	携帯電話に発癌性	358	理学療法士・作業療法士
69	唾液の効用	250	半球睡眠	370	行動拡大療法
78	乳酸菌代田株	253	リンパ浮腫	375	生理痛と片頭痛の違い
81	アンチエイジング	260	遅延型アレルギー	385	人ES細胞特許認めず
83	アレルギー	270	暑熱順化	388	チェルノブイリの首飾り
97	アニマル・セラピー	271	アメリカトカゲとインクリン	391	バレニクリン禁煙補助剤
99	ハンセン病	276	キメラ, 2種類のDNA	396	病院がトヨタを超える日
110	Temporary ablebody	280	臓器移植法改正	399	3D両眼視差
112	開かれた研究環境	296	Heat Shock Protein	401	盲導犬ロボット

表3 生物・農業系内容の「姫百合」

No,	内 容	No,	内 容	No,	内 容
30	八十八夜の別れ霜	123	恐竜の絶滅	307	好適環境水
55	口蹄疫	128	里地・里山の激変	318	スペインスマルク効果
59	地球温暖化, 生物多様性	132	生物農薬	324	アクアアルタ, モーゼ計画
70	ゼロエミッション	158	ビオトープ	342	牛肉のセシウム汚染
76	クロマグロの完全養殖	161	特定外来生物	344	ネイチャー・テクノロジー
77	養殖革命	165	名古屋COP10	345	ファールブル昆虫記
82	水の惑星地球	167	岩石が語る地殻変動予兆	363	スペースデブリの恐怖
91	世界遺産, 白神山地	172	ユーグレナが世界を変える日	368	山形ガールズ農場
98	シーシェパードとグリーンピース	176	アルゼンチンアリ	373	富士山噴火の可能性
108	オガララ帯水層	184	カンブリア爆発	387	グリーンベルト運動
109	アラル海の消滅	187	ナラ枯れ	388	チェルノブイリの首飾り
113	EVとHVとPHV	193	名古屋議定書	395	シェールガス
114	生物多様性条約	262	江戸の循環型社会	398	ウーロン茶「大紅袍」
120	ハイテクの路地最前線	303	天然鰻の卵発見		

5. 成果と課題

5.1 号外4「脳死について」の生徒, 保護者の感想

(1) 「脳死」の問題点と改善点

「脳死」の問題についての内容が書いてあった姫百合を読んで, 私は人間やその他の動物や生き物などの命は, とても大切だけれど, これ以上治療を続けていても目覚めない状態が続いたり, 脳死だと判断された場合, 治療を続けるよりも「人間らしい最後を全うする」という『尊厳死』の方を選んで, 延命治療を受けないようにした方がいいと思いまし

た。確かに治療を受けないと亡くなってしまうということになるし、家族もその人が死んでしまったと認めることになって、とても辛い気持ちになると思います。でも、何もできない・何も感じない状態でずっと生き続ける人も辛く悲しいと思います。そこで問題点として、本人の意志の書面や家族が代理人になっても良いかなどが挙げられていて、これからよく考え改善していかなければならないことがあるということも分かりました。（生徒 N・S）

(2) 「脳死」と「尊厳死」

4月に主人の母が亡くなりました。脳出血で倒れてから1年7ヶ月の入院生活の末のことでした。一時は医師から覚悟して下さいといわれましたが、微笑んだり多少の意思表示ができる程に回復しました。しかし、口から食べられないので、“胃ろう”を作ったり、気管切開をして痰を取りやすくする、最後は人工呼吸器と、その度に意思表示のできない本人に代わり、家族で話し合い決断してきました。一番は本人の気持ちで考えることだけれど、“生きている”のではなく“生かされている”ことが、本人にとっても家族にとっても幸せなことなのか、いつもいつも考えさせられました。“人間らしい最後を全うする”。自分の最後くらいは、どうしたいか家族で話したりすることは大事だと思います。いつその時がやってくるか誰も分からないのですから。（保護者 H・S）

私も肺がんになった父親を半年看病したことがあります。赤穂高校の定時制に初任で勤務した時で、夜は私が、昼間は母が付き添いました。10時に定時制勤務を終えて母と付き添いの交替をし、父のベッドの下で仮眠しました。夜中に父が大便をしてしまうと臭いで分かるので、おしめを取り替えて、体を拭いてあげ、おしめの洗濯をしました。父は手術の跡が痛いとなースコールを押してモルヒネの投与を求めます。しかし、モルヒネは父を廃人にしてしまい、息子の私が分からなくなって、下の世話をする私に「兄ちゃん悪いねえ」というようになってしまい、痛みを和らげてあげたいのでモルヒネを打たせる母と、父が廃人となるのが耐えられず投与を拒否する私と口論になったこともありました。たとえ半年でも、良くなる見込みのない病人を看病し続ける家族の苦しみは計り知れません。生命維持装置を外してもらいたいと何度思ったことでしょうか。佐々木さんご家族のお気持ちを思うと胸が痛くなります。（担任のコメント）

5.2 グループホームの火災に見る「介護問題」

「グループホームの火災」への保護者の感想、

この度は「姪百合」100号突破お目出度うございます。毎日先生の博学なる時事放談に触れ、親子共々感服すると共に、又感想文なる機会を与えて頂き有り難うございます。私は現在、認知症グループホームに勤務しております。以前 No.35 の「グループホームの火災」について介護問題を取り上げていただき、大変勉強になりました。現在、私自身の身にも降りかかっている問題で、少子高齢化・介護・看取り（脳死）についても、避けては通れないこの国の大きな課題の一つであると思います。個人的には、50号の「人間の心理」や、26号の「歴史を学ぶ意義」で、“歴史には幸福なページはそう多くはない。”

だからこそ人間の愚かさから学び、他者との共存を実現していかなければならないのだという目的を、この年になって初めて知りました。今後も脳の活性化のために、沢山の課題・話題を投げかけて頂きますように。（保護者 T・K）

5.3 号外 10 「沖縄慰霊の日の感想」への感想

(1) 「沖縄慰霊の日」を通して組織的戦闘について考える

私は、号外 10 で出された「『沖縄慰霊の日』組織的戦闘の終結」の感想を書きます。私は、歴史が結構好きで戦争にも興味があります。沖縄での戦争は 80 日にも及ぶ地上戦があったそうで、二十万人もの人が犠牲になったということを読み、80 日（2 ヶ月以上）も自分達が住んでいる所で激戦が繰り返されたと思うととても怖くなりました。現在ではそんなこと考えられません。でも 60 年前は実際に激戦があったのです。沖縄の人々は毎日この苦しみに耐えていたなんて心が痛くなります。戦争なんて嫌だったのに「お国のために」と強制され、本当はどんなことを想って戦場に向かったのか知りたいと思ったし、敵だからといって人を殺すことは本当に悲しいことだと思いました。修学旅行の学習でもっと詳しいことを知りたいと思いました。（生徒 S・I）

(2) 保護者が求める沖縄研修旅行への願い

4 年程前、家族で沖縄旅行をしました。大きな旅行をするのは、後にも先にも多分一回きりになると思い、意味のある旅行にしたいと、「戦争」をテーマに「ひめゆりの塔」と「平和記念資料館」に立ち寄りました。「ひめゆりの塔」の入り口では、安価な花束が販売されていて、地元のお年寄りと思われる人が花を買い線香をあげ手を合わせて帰って行きます。塔の石碑の前には大きな穴が空いていて、その暗い穴を見ているとありありと大きな悲しみが伝わってくるんです。誰のガイドを聞いた訳でも、悲惨な写真を見た訳でもないのに、涙が溢れて止まりませんでした。「ここでは何も終わっていないんだ」と、そう強く思いました。悲しみも、そこに生きる人々も、ずっとずっと繋がって今があるんだと。あの時小学校 6 年だった娘が、高校 2 年の沖縄研修旅行で何を感じ、何を想うのか。何かを感じてくれたらいいなあと思いました。（保護者 Y・M）

5.4 号外 12（「やる気」・「褒め上手」の感想）への感想

(1) チャンピオンを育てる教育法

私は、今までの「姫百合」を読んで一番印象に残ったのは、16 歳でテニスの世界チャンピオン「マルチナ・ヒンギス」を育てた母親の教育法についてです。また「やる気」とは、スポーツをやるうえで大切なことなので興味がありました。大事な教育法の三つの内、一番私が大事だと思ったのが、「目標」を次々に与えて導くということです。実際、部活動に所属しているみんなは「目標」があって入部し、活動していると思います。私も大会があるたびに目標を設定し、達成できたことは次回その上を出せるように、達成できなかったことはよく反省し、原因を考え、日頃の部活で練習しています。（生徒 R・K）

(2) 「褒める」ことの大切さ

私も「褒める」と「やる気（潜在能力を引き出す）」は、非常に深い繋がりがある

と感じています。子育てにおいても勿論ですが、社会生活でもとても重要なことと思います。人は大人になるにつれ、褒められることから遠退き、「やって当たり前、出来て当然」といった中で仕事をし、生活をしています。でも、本当は大人だってもっと褒められたいし、認めてもらいたいのではないかと思います。自分を見ていてくれる人がいる、認めてくれる人がいる、それだけで今以上の力を発揮できることを実感しています。人を認め、素直に褒められる人でありたいと思います。（子育てでは、なかなか素直に褒められないものですが）「気づき」・「感動する心」を持てるように心掛けています。（保護者 T・O）

5.5 号外 13（「サバイバーズギルド」の感想）への感想

(1) 自分の存在意義

僕はこの記事を読んで、本当に切なくなりました。古川先生の実体験を混じえてあるこの話は、まるで自分の身に起こったような悲しみを感ずります。目の前で身内が亡くなると言うことは、通常ではほとんど無いと思います。それを経た上で、自分の存在意義を見つけ、又お母様にマッサージをなさっている先生は、本当に強く、本当に優しい方なのだと思います。今でもこの話は、何度読んでも涙無しには読むことが出来ません。まだ僕は自分の存在意義を見つけられません。でも今僕に出来ることは、ひたすら自分を信じ続け、出来ることをやり遂げることだと思います。その手助けとして、「姫百合」はとても役立っています。「姫百合」を読むことで、将来への道が出来ていくのが自分でも実感できます。これからも「姫百合」を読み、自分の道を磨いていきたいと思います。（生徒 T・O）

(2) 親子の絆

「姫百合」56号は、自己存在の意味を、古川先生の体験を通して示してくれたものだと思います。私が子育てで悩んでいた頃（現在も悩んでいます）、老人が戦争の話しをしてくれました。特攻隊の体験でした。死を直前に迎えた時、何と言って死んでいくか質問されました。私が「天皇万歳」ですか？と答えると、そうではなく「おっかさん」と叫ぶんだよと話して下さいました。母として自分に自信がない時だったので、心に大きく響きました。子どもとの距離を感じて寂しいと思っているのは私だけではないでしょう。しかしこの体験談から、今も昔も子供の心の奥に親は存在していると感じます。親も子も感情には出ないだけで思い続けているのです。多忙の中、先生の熱心さに感謝でいっぱいです。今後も「姫百合」を通して、私達に知識と先人達の情報を伝えて下さい。（保護者 M・H）

5.6 三年生への抱負

冬休み前の LHR で、「三年生への抱負」と題して卒業学年に向けての決意を 1000 字で書いた作文は大切な出発点であり、それを冬休みに持ち帰り、保護者に書いて頂いたコメントは、保護者の激励と期待が込められた大切なものである。その幾つかを紹介する。

(1) 将来の夢に向かい、色々な情報など常に高いアンテナを持ち、進学したい学校を選び、その進学先で、「私はこのようなことを是非学びたい」と言う高い目標を持ち、前に進んでいって欲しいと思います。そして社会に出た時、一生懸命に勉強したことが役に立ち、

社会の一員として自信を持って生きていって欲しいと思います。娘がこの「三年生への抱負」を書いている時間は、きっと今の自分を見つめ、反省する所は反省し、新たな目標をしっかりと持ったと思います。親として、微力ではありますが、子どもの背中を押してあげ、将来の夢が叶いますように応援していきたいと思います。「三年生の抱負」を読ませて頂いたことに感謝致します。（保護者 A）

(2) 新しい年を迎え、高校生活最後の年を迎えるこの時期に、改めて自分を見直す機会を与えて頂き、親としても有り難く思います。宜しくお願い致します。（保護者 B）

5.7 「姫百合」発行の成果についての考察

(1) 学級経営に顕著に現れた成果

短学活 5 分前から全員揃って「姫百合」を読む習慣が身に付き、遅刻者もなく、担任の連絡も静粛に聴けるようになり、学級単位の活動において団結力も養われた。4 組のこうした変化が、他のクラスにも少なからず波及して、学年全体も落ち着いてきたと思う。その結果、遅刻・欠席や問題行動など例年になく少ない学年と言われている。

クラスとしての成果は、コーラスコンクールで、1 年次銀賞、2 年次金賞で特別賞を受け、早朝や放課後に主体的に練習した結果と言える。クラスマッチでは、春秋 2 回の内、2 年次秋には、3 種目優勝・2 種目準優勝となり、全校で総合優勝に輝いた。強歩大会では、2 年次に男子個人優勝をし、クラス 1 人 1 人が完歩を目指して頑張れた。2 年次の文化祭では、1 組との合同で修学旅行で訪れる沖縄の歴史・文化・産業・平和について展示発表をし、沖縄県の協力を得て物産の販売も行って盛況を博した。17 万円に上った売上金の全額を、東日本大震災への義援金として寄付し、被災された方々を皆で支えることができた。修学旅行の際、那覇空港で沖縄県の関係者の方から大段幕を張った熱烈な歓迎セレモニーをして頂き、生徒の心に残る記念となった。

(2) 教科指導「倫理」に現れた成果

「姫百合」の作成によって、教科書から離れて、エピソードや背景・思想にまで踏み込んで提示することができ、興味を持って授業に取り組んでもらえたと考える。その成果として、3 年生の「倫理」においては、センター試験の校内平均点が全国平均を上回り、校内の教科平均点のトップになることができた。3 年次の小論文・面接指導においても、生徒が興味を持って主体的に取り組むことができ、志望校への合格を果たすことができた。

(3) 部活指導「弓道部」に現れた成果

弓道部は、平成 23 年度、男子・女子共に高校総体において団体戦・個人戦で県大会出場を果たし、女子が団体 3 位、個人 2 位となつて、北信越大会で団体 4 位、個人 2 位となつた。8 月に岩手県盛岡市で開催された全国大会にも個人戦に出場できた。12 月の新人大会では、女子が団体戦県大会ベスト 8 で、岐阜市で行われた中日本の大会に出場を果たした。弓道は精神的な要素の大きい競技であり、技術的指導はもちろんのこと、「感謝の気持ち、真面目に取り組む姿勢、忍耐力」などメンタルな部分の指導を、「姫百合」を折に触れて配布し、各自に主体的に考える機会を与え、徹底を図った結果であると考えている。2

学年3学期期末テストの英語、「高校時代に努力したこと」という英作文の問題で、弓道部の生徒の文章を英語の先生から紹介された。Question: What have you devoted yourself to in your high school days so far? (40語以内で) ①I belong to the Fuetsu high school Kyudo club, It is Mr, Furukawa that I respect most among the teachers, I want to make an effort in Kyudo club, (生徒 M・S) ②I have devoted myself to practice in the Kyudo club, Mr, Furukawa said that to practice Kyudo is the same as to study, So I have believed him and done according to his teachings, In the next tournament I want to do my best, (生徒 K・S)

英作文に弓道部での筆者の指導を取り上げてくれたことに感動すると共に感謝している。こうした生徒の素直な「共鳴」が、成果となって大会の成績や日頃の活動への姿勢となって現れてきている。以上、学級経営、教科指導、部活指導において、学級通信「姫百合」の成果が現れてきていることを実感している。

5.8 課題

今までのキャリア教育の取り組みで、「一人ひとりの自己実現」は進行しつつあるが、こうした進路や社会に対する問題意識の高まりが、クラス内はもちろんのこと、広く学年全体、さらに全校にと「共鳴」させていくことが大切であり、どのように「共鳴」を生み出していくかが課題である。また、従来の「キャリア教育」は、適性に即した職業の決定（自己実現）が中心であり、不労所得（資本金子や株式配当）など収入が多い仕事ばかりが重視されて、清掃・福祉や第一次産業など社会の根幹を担う職業が軽んじられる傾向がある。それをどう払拭して、社会をみんなで支えていくという気持ちを若者に浸透させていくかが大きな課題である。そうした点を踏まえて、学級通信「姫百合」を活用していくことが重要である。

文献

- 船井幸雄(1996)『百匹目の猿―「思い」が世界を変える』サンマーク出版, p.27
- 古川忠司, 鎌倉正之, 川根一仁, 土井 進(2002)「松川中学校における「自問清掃」の導入と展開(1)」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』第1号 pp.163-172
- 古川忠司, 鎌倉正之, 川根一仁, 長沼正博, 土井 進(2003)「松川中学校における「自問清掃」の導入と展開(2)」信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』第2号 pp.143-152
- 古川忠司(2010-2011)「姫百合」1号～202号, 号外1号～25号, 飯田風越高校1年4組で発行した学級通信
- 古川忠司(2011-2012)「姫百合」203号～403号, 号外26号～35号, 飯田風越高校2年4組で発行した学級通信

(2012年6月19日 受付)